

ほけんだより No.1

法光院こども園 令和4年度5月10日 発行

新年度が始まり、1ヶ月が経ちました。新しい環境に慣れてきて疲れが出やすく、体調を崩しやすい時期でもあります。子ども達の様子で少しでも気になることがありましたらお知らせ下さい。保護者の方と連絡を密にし、子ども達の健康に配慮していきたいと思ひます。又、コロナウイルスにもまだ注意が必要です。こども園でも引き続き感染症対策を徹底し、子ども達が安心して楽しく過ごせるように取り組んでいきたいと思ひます。

【感染症について】

集団生活の中で感染症になることがあります。感染症の疑いがある場合は、早めの受診をお願いします。出席停止になる病氣や登園届け、予防接種につきましては別紙をご覧ください。

- 登園届け・・・乳児組は配布しますのでご家庭で保管をお願い致します
 幼児組は子どものお帳面に挟んであります
 ※使用したり紛失した場合はお声掛けください

- 予防接種・・・接種後は重い副反応出ないか様子をみましょう。その後はゆっくり過ごしましょう。予防接種を受けましたらお知らせ下さい。又、接種後の体調の変化で気になることがありましたら伝えてください。園でも様子をみていきます。

【薬の投与について】

こども園では原則、薬の投与を控えさせていただいています。診察を受けるときに、お子様が保育園に在園していることをお伝えください。その上で投与の必要がある場合は1回分のみお受け致します。なお、万全を期する為、「お薬依頼書」に必要事項を記入していただき、薬と処方箋を添付して必ず職員に手渡しして下さい。

お薬依頼書

記入のうえ、保育者に薬と一緒にお渡しください。無熱剤、市販の薬はお預かり致しかねます。 法光院こども園

依頼日	年 月 日		
クラス 児童名	(もも組 りめ組 さくら組 きく組 あおい組) 保護者名		
病名	病名	病院での処方日 年 月 日	
薬の内容	・抗生剤 ・下痢止め ・咳止め ・鼻水 ・外用薬(塗薬 点眼薬)		
服食前	時	水薬	粉薬 (錠剤)
服食後	時	水薬	粉薬 (錠剤)
おきつ前	時	水薬	粉薬 (錠剤)
おきつ後	時	水薬	粉薬 (錠剤)
備考			
受付保育士	受付保育士		

感染症にかかられた時のお願い

法光院こども園 園長 三好東洋

お子様が、下記の「感染症の一覧」に記載された感染症にかかられた場合は、他のお子様に感染する恐れがありますので、速やかに医師の診断を受け、ご家庭で保育して頂きますよう宜しくお願い致します。尚、登園にあたりましては「感染症の一覧」に従い別紙の登園届けを必ずご提出頂きますよう宜しくお願い致します。

【A 登園停止が必要な感染症】

病名	登園停止期間のめやす
インフルエンザ	発症した後5日経過し、かつ解熱後3日経過していること
百日咳	特有の咳が消失していること。又は抗菌性物質製剤による5日間の治療が終了していること
はしか(麻疹)	発疹に伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで
おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫れが出た後5日経過し、かつ全身状態が良好になるまで
風しん	発疹が消失するまで
水ぼうそう(水痘)	全ての発疹が痂皮(かさぶた)化していること
プール熱(咽頭結膜熱)	発熱、咽頭痛、結膜炎等の主要症状が消退した後、2日を経過するまで
結核	医師により感染の恐れがないと認められるまで
コレラ・細菌性赤痢、腸チフス等	医師により感染の恐れがないと認められるまで
腸管出血性大腸菌感染症(O157)	医師により感染の恐れがないと認められるまで
流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎	眼症状が改善し、医師により感染の恐れがないと認められるまで

【B 条件によっては登園停止の措置が必要と考えられる感染症】

病名	再登園のめやす
溶連菌感染症	抗菌薬内服後24～48時間が経過していること
ウイルス性肝炎	主要症状が消失し、肝機能が正常化したとき
手足口病、ヘルパンギーナ	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
りんご病(伝染性紅斑)	全身状態が良いこと
マイコプラズマ感染症	発熱や激しい咳が治まっていること
流行性嘔吐下痢症(ノロ、ロタ)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
サルモネラ感染症 カンピロバクター感染症	下痢が治まり、全身状態が良好なら登園は可能
急性細気管支炎(RSウイルス感染症)	呼吸器症状が消失し、全身状態が良好なら登園は可能
EBウイルス感染症 サイトメガロウイルス感染症	解熱し、全身状態が良好なら登園は可能
単純ヘルペス感染症	口内炎や歯肉炎のみの場合は、普通に食事がとれれば登園は可能
帯状疱疹	全ての発疹が痂皮(かさぶた)化すれば登園は可能
突発性発疹	解熱し機嫌が良く、全身状態が良いこと

【C 通常、登園停止の措置は必要ないと考えられる感染症】

病名	留意事項
アタマジラミ症	頭髮に直接接触、体や頭を寄せ合うこと、寝具やタオル・クシの共用により感染するので注意する
疥癬	手に比較的多くのヒゼンダニがあり、手を介して感染することもあるため、日常的に手洗いの励行等の一般的な予防法を実地すること
水いぼ(伝染性軟属腫)	皮膚と皮膚が接触することにより感染する可能性がある。このため、水いぼを衣類・包帯・耐水性ばんそうこう等で覆い、他の子どもへの感染を防ぐ
とびひ(伝染性膿痂疹)	患部を外用药で処置し、浸出液が染み出ないようにガーゼ等で覆ってあれば登園は可能。患部を掻くことで悪化したり他の人と触れたりすることがあるので水遊びや水泳は治癒するまでやめておく
B型肝炎	最も効果的な感染拡大防止策はHBワクチンの接種である。又、定期接種の対象でない子どもについても、HBワクチンの接種を済ませておくことが重要